

発行人 福島県教職員組合
 発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
 [定価一部 20円]
 編集・責任者 角田 政志
 e-mail: ftukyoso@poplar.ocu.ne.jp
 http://www.f-t-u.or.jp
 (この購読料は組合費に含まれています。)

人事評価制度は、

ほんとうに

「教職員の能力を 高めるためのもの」か？



4月から人事評価制度本格実施強行!

2015年5月、地方公務員法が改悪され、教職員の人事評価制度が本年4月から強行されました。県教組は本制度が学校教育と教職員の働き方の根幹を揺るがす愚挙であるとの認識に立ち、「学校の現状を無視した評価制度に反対し、査定昇給を阻止しよう!」をスローガンに県教委と交渉を重ねてきました。給与への反映に関しての本格的な交渉はこれからになりますが、県教委は、11月の秋闘交渉を目途に確定したいとの方針を表明しています。

ふまえておきたいことは人事評価制度の目的は「教職員の能力開発」「教育活動の充実」「組織の活性化」であることです。「C」「D」評価で脅かして、教職員に不安を与えては、それこそ「目標の達成」はできません。県教組は制度導入に絶対反対です。

評価制度強行にあたり、これまでの交渉で県教委と確認した内容をお知らせします。

その1

賃金への反映は別財源です!

5段階の評価のうち「C」「D」評価の賃金を下げて、「S」「A」の賃金に上乘せする制度ではありません。「S」「A」の上乘せ賃金の財源を確保するために、あえて「C」「D」評価をするわけではありません。基本は絶対評価です。

その2

2020年3月までは「現給保障」期間です!

14確定交渉で県教組は5年間の「現給保障」を獲得しています。15年4月から20年3月までの期間です。その間、月給は下がりにません。但し、17年6月のボーナスの勤勉手当の金額や、現給保障期間中でも給料の号給の伸びに影響が出ることがあります。

その3

勤務時間内(7時間45分)が評価の対象時間です!

多忙化・過重労働が深刻化し、翌日の授業の準備すらままならない状況でも、評価の対象は勤務時間内です。部活動や突発的な生徒指導等、「総合的に勘案」とされていますが、こんな曖昧な状況で賃金に反映できません。超過勤務をした者が高い評価を受けるのは公平性に欠けます。

その4

評価者(管理職)の「パワハラ」は厳禁です!

評価をちらつかせて横暴な言動をする評価者の「ハラスメント」(パワー・セクシャル・モラル・マタニティー等)は厳禁です。もしハラスメントを受けたら、すぐに組合へ連絡を!

その5

権利行使で評価は下がりにません!

年休の取得をはじめ、様々な権利を行使しても評価の対象外です。評価の対象は勤務時間内の勤務している時間です。



その6

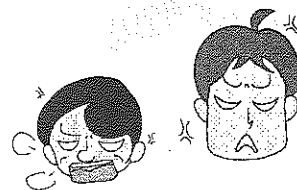
再任用・臨採者の賃金への反映はありません!

評価の対象とはなりますが、賃金への反映はありません。安心して働いてください。

その7

臨採者(常勤・非常勤)の評価結果は採用試験に反映されません!

採用の公平性の関係から、臨採者の評価結果は採用試験に反映できません。新卒者との差が生じるからです。採用の可否は、試験の結果のみです。



【自己目標・手立て記入について】

数値目標について

数値目標は義務ではありません。「手引き」のQ&Aにもあるとおり、「数値化できるものは数値化」すればいいだけです。評価者(管理職)のためにわかりやすく書いてあげてください。評価者が数値化を強要するようなときは、「数値化が義務かどうか、県教委へ問い合わせてください。」とやさしく教えてあげてください。子どもの成績や行動に関する達成率の数値化は絶対に避けてください。

<自己目標・手立て設定のポイント>について

「手引き」P16には「自己目標・手立て設定のポイント」がありますが、これはあくまでも設定のためのヒントです。義務ではありません。Q&Aにも「何を・いつまでに・どのような方法で・どの程度まで」の記載がありますが、具現性、具体性を持つ目標・手立てであれば十分です。

【人事評価制度に関する根源的な疑問】

現行の学校教育は子どもたちの「主体性」を大前提としています。学校教育は子どもと教職員、家庭・地域環境等の複雑な相関関係の中で成立し、最終的には子ども自身が様々な経験の中から自己の在り方を導き出していくものです。教職員の「実績」「成果」とは何なのでしょう。どう考えても、子どもは学校や教職員の「ぬり絵の台紙」でも「操り人形」ではないはずです。

3月に行った交渉の中で、

「給与に関しては、安心して仕事に励んでいただいていい。」

との県教委からの発言がありました。

問題点だらけの

「教職員人事評価制度の手引き」

— 一人ひとり学習し、仲間と理解を深め、

職場で問題を指摘し、みんなで共有化しよう! —